

帯広で交流会

管内外から
約100人参加
問題解決の
実践発表



帯広市の国際姉妹都市
・米国マディソン市から
精神障害の当事者、支援
スタッフらによる訪問団
5人が5～11日に来勝、
6日には帯広の「おおえ
メンタルクリニックゆ
う」（西5南12）で十勝
などの当事者らと交流し
た。管内と日高管内浦河
町、札幌市などから約1
00人が参加、浦河町で
始まり十勝で普及が進む
「当事者研究」の実践発
表などで地域での回復を
目指す手法を学び合っ
た。

交流会であいさつするマディソン市の訪問団（立ち
上がっている左から5人目まで。右から2人目がミ
ラー会長、右は帯広当事者研究会の酒井代表）

帯広の社会福祉法人真宗
協会（種渡喜久雄理事長）
と同刀圭会（長谷川賢理事
長）が招き、帯広マディソ
ン交流協会（門屋充郎会長）
が協力。マディソン帯広姉
妹都市会のジョー・オオヤ
マ・ミラー会長と障害の当
事者・元当事者の3人を含
む計5人が訪れた。

交流会は帯広当事者研究
会（代表は酒井一浩・同ク
リニックデイケア主任）が
主催、道内のほか岩手県か
らも当事者らが参加した。
浦河町へてるの家で始まっ
た精神病患者が自らを分析
する「当事者研究」の実践
発表では、「家族が互いに
怒りの感情を抑えられない
い」という男性当事者が発
表した。

続いて、その解決方法を
探るSST（生活技能訓練）
を披露、子供のいたずらを

怒らないでたしなめる方法
を会場の参加者の協力を得
ながら実演した。

発表した男性が、鮮やか
に問題を解決できるように
なると拍手が湧き、見学し
たミラー会長も「子供に精
神障害を理解してもらった
めに有益な方法だ」と評価
していた。

訪問団は7日午前、市役
所を訪れ、米沢則寿市長を
表敬した。（横田光俊）